

大阪工業大学がロボット関連の 新学部を梅田の新キャンパスに

大阪工業大学（大阪市）は、2017年4月にロボットとデザインに関わる新学部を設置する準備を進めている。校地は、大阪の中心地の一つ、梅田に建設している地上22階地下2階建ての高層キャンパス。阪急梅田駅やJR大阪駅のすぐそばの立地で、梅田の地下街とも直結している。

新学部には、「ロボット工学科」「システムデザイン工学科（仮称）」「空間デザイン学科」の3学科を設置する構想。「デザイン思考」という発想を教育に取り入れ、社会の課題解決に取り組む。

ロボット工学科は、ものづくりの楽しさを学ぶ実践的教育の中で、幅広いテーマのロボット研究に挑戦し、人を支援する視点でロボットを設計できる人材の育成を目指す。システムデザイン工学科は、IoT（Internet of Things モノのインターネット）に関わる技術に必要な知識・技術を修得しながら、企業と連携し、最先端のイノベーション手法を修得。ユーザーの視点に立ったものづくりのプロセスを学ぶ。空間デザイン学科は、建築・インテリアデザイン、プロダクトデザインの2コース制でテクノロジーとデザインの融合による「人にやさしい」生活環境の実現を目指す。

インターンシップ「役立った」は 〈1カ月以上〉56.9% 〈1日〉23.6%

全国大学生生活協同組合連合会が、学生生活実態調査（第51回）の概要を発表した。インターンシップの効果についても調査していて、この1年間でインターンシップに参加したことが「ある」と回答した学生は13.5%だった。内訳は、1年生1.7%、2年生4.4%、3年生24.9%、4年生25.3%。文系3年生33.3%、文系4年生37.8%、理系3年生20.8%、理系4年生17.6%。

また、インターンシップの日程の長さ、インターンシップの効果が、ほぼ比例していたことも分かった。〈1カ月以上〉にのみ参加した人の場合は「大いに役立った」の割合が56.9%もあった。これに対して、〈1日〉のみへの参加者の場合は「大いに役立った」が23.6%と低かった。

新テスト——マークシート式問題の イメージ例（たたき台）が提出

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、いわゆる「新テスト」について議論をしている「高大接続システム改革会議」の第11回が、2月17日に文部科学省で開催された。その中で新テストで評価すべき能力とマークシート式の問題イメージ例（たたき台）に関わる資料が提出された。

問題イメージ例として取れ上げられた科目は、物理と世界史。マークシート式の問題のイメージ例のほか、重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力（案）も例示されている。その中で注意書きとして、「ここに示す問題イメージ例は、マークシート式問題の出題に当たっての考え方の方針を示す趣旨で作成したものであり、大学入学者選抜の直接のモデル問題として検討したものではない。（問題の難易度を含めた「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」としての具体的な作問の在り方については引き続き検討。）」とも書かれている。

新テストについて議論している「高大接続システム改革会議」の議事要旨・議事録・付資料は、下記のサイトから入手可能。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/064/giji_list/index.htm

南山大学が「国際教養学部」（仮称）を 2017年4月に開設予定

南山大学（名古屋市）は、2017年4月に国際教養学部（仮称）を設置する計画を進めている。地球規模の視点を持ち、国際社会の諸問題を解決できる、国際教養学を備えた人材を育成していく考え。

新学部には1学科「国際教養学科」のみ設置する計画。学びの特徴は、グローバル・スタディーズを主軸とし、それを補完するサステナビリティ・スタディーズによって、国や地域の枠を超え、多様な価値観を重んじる国際教養学教育を実施する予定。文化間の摩擦により生じるさまざまな問題を理解・分析しながら、その解決に向けて他者と協働しつつ、積極的に行動できる人材を育成するために、地球規模の課題を解決するグローバルリーダーに求められる「外国語能力」「教養力」「探求力」「実践力」を養う。